



Bz-Collegio

BZC通信 2021年1月号

2020年を振り返って

2020年を迎えたときは、オリンピックイヤーということで華やかな年になることを期待していましたが、後世にはコロナウィルスの年として記憶されることでしょう。人々の生活様式を大きく変えたインパクトは、私たちの考え方、感じ方にも影響を及ぼしているように思えてなりません。三密がタブーとされる中で、人と人との交流がこれほど見直されたことはなかったでしょう。一人ひとりに向き合うことが見直されている今、私どももこのような紙面を作成して、皆様と新たなつながり方を模索しています。

2020年4月、私たちは長年の拠点であった八幡の地から、小倉に移転しました。私自身が生まれ育った八幡を離れるのは心苦しいものでしたが、それまでの倍以上の広さの事務所を西日本工業大学大学院・地域連携センターに思い切って借りることにしました。広くなった部屋はカウンター付の家具を自ら設計して区切り、ワーキングスペースである「コラボレーションスペース」と、多目的スペースである「クリエイティブラウンジ（写真）」を設けました。スペースに余白が生まれたことが影響したのでしょうか、社内の雰囲気が大きく変わってきました。スタッフの皆さんの気持ちに余裕が生まれてきたように思います。



また、コロナ過と引っ越しを良い機会に社内コミュニケーションのあり方をガラッと変えました。リモートワークのスタッフがいるため、打ち合わせは朝夕毎日2回必ず行うようにし、社内の業務連絡はTeamsで行うようにしました。これにより、全ての業務ログを残しつつ、情報に溺れることなく管理が行えるようになりました。さらに、毎朝、24時間以内に起こった良かったことや新しい体験などをお互いに発表する「グッドアンドニュー」や、スタッフの誕生日に感謝の気持ちを伝える「感謝を伝える日」により、一人ひとりの発する言葉が多くなり、業務が円滑に進むとともに、皆の潜在的な力が表に出てくるようになってきました。それまで私一人でもがいていたことが、スタッフ間で解決されることが散見されるようになり、冷静な顔をしながら変化に驚いています。

デザインマインド

デザイン思考、サービスデザイン、情報デザイン、、、呼び方はいろいろありますが、弊社では、業務遂行にあたりこのような考え方を取り入れるように促し、勉強をしています。

これらデザインXは、アイデア、試作、観察、共感といったものに重きを置き、クリエイティブにイノベーションを生み出す方法が説かれています。新しい考え方のように感じますが、インターネット創生期に何かできることがあるのでは？と起業し、もがいていた私自身が結果的に実践していたことでもあります。我が社は常に新しいことにチャレンジをするベンチャー企業だと思っていましたが、気がつけばスタッフの数が増え、当初のスピリッツは私だけが懐かしむものになっていました。これではまずいとデザイン・ラボというチームを立ち上げ、デザインXを参考にセミナー開催などの新たなチャレンジを試みています。

お仕事紹介

2020年12月に国民健康保険の試算システムを開発しました。これが読まれているときにはサービスが開始されていることと思います。世帯主、世帯員の方の年齢、収入から簡単に試算を表示されるものです。結果はPDFで表示するようにしています。まだまだ現役プログラマーを続けるつもりではありますが、生涯であと何個プログラムが組めるだろうと思うと、貴重な機会をいただいたと思っています。

10月にチーフデザイナーになってもらったTさんには、地元放送局の仕事に加え、ホームページデザインにも力を注いでもらっています。2020年11月には新たに開院する病院のホームページデザイン*1、年明けには地元企業さま2社と社団法人さまのホームページが、リリースされます。伸びやかでモチーフが幾重にも織り込まれたデザインが特徴です。

*1 <https://www.koyufamilyclinic.com/>